

「NHK、政治家ネタ没」

表題と写真は朝日新聞 1 月 8 日朝刊に掲載された記事である。お笑いコンビの爆笑問題が TBS のラジオ番組で、NHK の新春番組に出演した際、事前に用意していた政治家に関するネタを没にされたことを明らかにした。

その番組とは 3 日昼に放映された「初笑い東西寄席 2015」だ。昼食を食べながら、たまたま番組を見ていた。爆笑問題が「総合司会」役で、東西の寄席を軽妙に案内していた。ラジオ番組の中で、田中祐二さんは「全部ダメって言うんだよな。あれは腹たったな」と話した。太田光さんは「---テレビ局側の自粛っていうのはありますけど。問題を避けるための」と話し、田中さんは「色濃くなってるのは肌で感じるね」と応じた。

お笑い番組とはいえ、メディアにとって、とりわけ NHK の現状からして無視できない問題があるように感じた。お笑いコンビ爆笑問題の皮肉をこめた「政治家ネタ」に、なぜこれほど過剰に反応するのか、「自粛」の背景が気になった。

毎日新聞 10 日社説タイトルは「テレビと政治 『自粛ネタ』は笑えない」であった。心配していたことが書かれていたので紹介する。テレビと政治をめぐる問題については、昨年から気になる事態が起こっている。衆院選の報道について、自民党が NHK を含む東京のテレビ 6 局に「公平中立」や「公正」を確保する「お願い」を渡した。その中で出演者の発言回数やゲスト出演者の人選まで、細かく対応を求めた。背景には報道番組に出演した安倍相が、アベノミクスへの厳しい意見が相次いだ街頭インタビューに不快感を示したことがあった。

自民党の要求の後、民放の内部からは「制作が完全に萎縮した」「生放送では選挙はほとんど取り上げなかった」などの声が聞かれた。そして今回の「NHK、政治家ネタ没」である。NHK の榎井会長は政治家の個人名を挙げて笑いのネタにすることは、「やめた方がいいのではないかと発言したという。古今東西、人々は権威や権力者を笑いの対象にすることで、その愚かしさや間違いを浮き彫りにしてきた。それは健全な民主主義社会に欠くべからざるものだろう、と社説は述べる。

新年早々あまり笑えない「ネタ」である。NHK 問題については別途レポートしたい。

(2015 年 1 月 13 日)

